

会議概要附属機関等の名称 安曇野市上下水道事業経営審議会

1	会議名	令和元年度 第1回 安曇野市上下水道事業経営審議会
2	日時	令和元年10月23日(水) 午後1時30分から午後3時30分まで
3	会場	本庁舎 4階大会議室(西)
4	出席者	飯沼会長、臼井委員、大江委員、保尊委員、望月委員
5	市側出席者	久保田上下水道部長、沖経営管理課長、横山上水道課長、石川下水道課長、堀内管理係長、重野維持係長、松岡維持管理担当係長、長崎下水道整備担当係長、中島庶務担当係長、古畑庶務担当係長
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人	0人 記者 0人
8	会議概要作成年月日	令和元年10月28日

協議事項等

○	会議の概要
1	開 会
2	あいさつ
3	議 事
	(1) 安曇野市水道ビジョン平成30年度事業評価について
	(2) 安曇野市下水道事業経営戦略平成30年度事業評価について
4	そ の 他
5	閉 会
○	議事の概要
会 長	：本日の審議会は委員の出席が10名中5名である。安曇野市上下水道事業経営審議会条例第6条第2項によると、審議会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。本日は審議事項は無く、報告事項のみのため、意見聴取に切り替えて開催してよいか。
委 員	：異議なし。
	(1) 安曇野市水道ビジョン平成30年度事業評価について
会 長	：安曇野市水道ビジョン平成30年度事業評価について事務局から説明をお願いする。 (事務局から説明)
	<質疑>
会 長	：質問があったら、委員の皆さんの発言をお願いします。
委 員	：A評価B評価は問題ないと思うが、C評価が問題だ。特に人材不足により未着手は、事務分担によるものなのか、仕事量によるものかをしっかり把握する共に、なぜ着手できなかったかも確認していただきたい。
事務局	：今の状況は、人員不足ではなく人材不足の状況だ。C評価とした水安全計画の策定は非常に専門的な知識が必要で、特に電気・機械に精通した人材でないと作業が難しい。
委 員	：日々の管理の面で専門的な知識を持った職員の確保も大事であるが、専門知識をもっている民間企業等を頼ることもできる。その点も検討されたい。
委 員	：全国の自治体にも言えると思うが、人材確保・人材育成が課題と聞いている。

日本水道協会も頼りながら、様々な団体を参考にしてパイプを作りながら情報交換をしていくことも大事と考える。また、水道ビジョンの計画に対し実施後のズレも必ず出てくるから、それもしっかりと把握されたい。

事務局：特に上下水道の仕事は長期的に在籍して知識を習得してもらう部署でもあると考えている。また、人材確保、人材育成も大きな課題ではあるが、今回の台風19号による上下水道に関連する報道を見ると、災害に対する準備も非常に大きな課題と感じた。

委員：今後起こるかもしれない災害のリスクを想定し、優先事項を整理して整備していただきたい。

委員：安曇野市の水源は地下水であるが、今回の台風被害と同様な災害が市内で起こった場合、水源としてはどのような懸念があるか。

事務局：地震が起こった場合、濁水が発生する事があるが、水害の場合は機械設備等が冠水・停電により使用できなくなり、送配水が行えないことが考えられる。しかし、水質面では特に問題ないと考えている。

委員：水道未利用者に対する水道接続の目標があるが、必ず接続をしなければいけないのか。

事務局：強制はできないが、水の安全利用の面で水道に接続していただきたいと考えている。

委員：井戸水等を使用している人たちへの安全利用のため、水質検査の義務付けはできないのか。

事務局：水質検査の義務付けは難しいと考えている。

(2) 安曇野市下水道事業経営戦略平成30年度事業評価について

会長：安曇野市下水道事業経営戦略平成30年度事業評価について事務局から説明をお願いします。

(事務局から説明)

<質疑>

会長：委員の皆さんから質問があったらお願いします。下水道事業全般に関する事でも構わない。

委員：流域下水道の単価はいくらか

事務局：93円税抜/m³で昨年と同額である。平成26年度から据え置かれている。

委員：流域下水道の流入量は減少しているか。

事務局：流入量は、水洗化の普及と一部松川村からの流入のため増加している。

委員：下水道は施設が新しいため、経営の面は心配ないと考えているが、いかがか。

事務局：下水道整備はほぼ終了し、接続件数も増加したが頭打ちになりつつあることから、使用料収入の増は大きく見込めないと共に、今後は設備修繕も増加することが予想されるため、コストダウンを進めていくことになる。また、使用料収入の増加した分、一般会計からの繰入金が減額されるため、安易に使用料の値上げはできない状況だ。

委員：下水道事業は、収入の多くを一般会計からの繰入金に頼っているため、健全な状況とは言えないのか。

事務局：一般会計繰入金は総務省の繰入基準によるものが殆どで、健全ではないと言うことにはならない。

委員：下水道についても、今後の災害について心配だ。従来は地震による災害が懸念されていたが、今回の台風19号の水害による上下水道の被害が報道されている。今後、様々な状況を想定して検証されたい。

○その他

水環境基本計画実施スケジュールについて
(事務局から説明)

<質疑>

会 長：委員の皆さんから質問があったらお願いします。

委 員：令和4年度から資金調達を行う計画であるが、資金調達のポイントは。

事務局：地下水涵養に関する資金調達だ。地下水を使う上水道事業も負担することになると考えられる。令和4年から資金調達を行うスケジュールではあるが、調達した資金を何に使うのか、目的をしっかりとしたものがないと資金調達には至らないと考えられる。今、実施に向けて環境課で調整している。

委 員：費用負担することによって、地下水利用を控えさせるためのものか。

会 長：水道のように水を使うから受益者負担の様な考えではなく、今後の水資源を守っていく観点で考えているものだ。

委 員：過去から地下水を使う権利もあり、地下水が減少しているから事業所と同様に費用負担を求めるには、しっかり説明できる状況にしないといけないと考える。地下水を使っているから費用徴収という考えには賛成できない。負担金を徴収することで解決できる問題ではないと考えるが、水資源を守ることは非常に重要だ。

会 長：私も安曇野市水資源対策協議会のメンバーになっているため、上下水道事業経営審議会の皆さまのご意見を参考にしたい。

下水道マンホール蓋デザイン公募について
(事務局から説明)

<質疑>

会 長：委員の皆さんから質問があったらお願いします。

委 員：投票数の多いデザインが採用されるとの事であるが、デザイン候補の中に安曇野市から見える山とは明らかに異なるデザインのものがある事が気になる。万が一そのデザインの蓋が選定された場合はどのように考えるか。

事務局：製品化の際デザイン変更があることは募集にあたって周知している。

委 員：デザイン変更は、多大な費用を要するとの批判も聞いている

事務局：現在5種類のデザインのマンホール蓋を統一することによって、将来に向けた経費削減になる。5種類の蓋を持つよりも維持管理コストは安くなると考えている。また、従来のデザイン蓋も使えるものは継続して使用して、段階を踏んで新しいデザイン蓋に更新していく予定だ。

(閉会)